

## 1 活動名

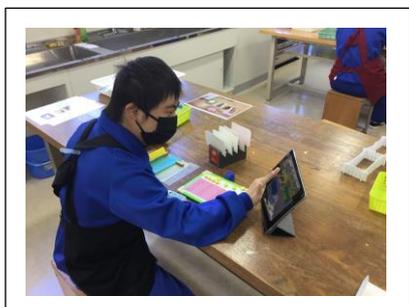
中学部 作業学習「個に応じた支援具の工夫とVOCAの活用」

## 2 対象

中学部3年生 生徒R

## 3 内容と取組の様子

対象生徒の言語コミュニケーションの特性として、独り言や何かに反応して出てしまった言葉には問題がないが、定型文で話そうとしたときに吃音が見られる。しかし、可能な限りの低音で音節を1文字ずつ区切り、ゆっくり話すことで吃音を回避できることを体得している。その話し方は、周囲の音声や作業で生じる様々な雑音の中では聞き取りにくく時間もかかるので、現段階では働く上でのコミュニケーションとして成立しているとは言い難い。そこで、事例研究のテーマを「個に応じた支援具の工夫とVOCAの活用」と設定し、指導に当たった。



## 4 使用したツール(システム・アプリ・ソフト・教材等)

- ・タブレット端末で、生徒の声を録音し iMovie で編集したものを keynote で使用した。

## 5 おすすめポイント

- ・録音してある自分の声を使いVOCA（タブレット端末）を使用できたこと。
- ・生徒の声が小さく、吃音があるため録音での編集が必要だった。何度も録音することで一番録音での再生が良かった生徒の声を使用することができた。
- ・作業中の円滑な依頼や報告ができるようにVOCA（タブレット端末）を使用した。
- ・少ない支援で円滑に活動できるようにするための工夫。
- ・録音してある自分の声で「おわりました」、「お願いします」と音声が流れるようなタブレット端末を使って検品の依頼をさせた。

## 6 さらに工夫したいこと

- ・編集が必要だったためアプリは使用せず、自作での iMovie で編集したものを keynote で使用した。
- ・録音や編集が可能なアプリがあれば活用を検討していきたい。